中学生の「税」についての作文

税務課では、納税意識の高揚を目的に、次代を担う中学生を対象に「税についての作文」を募集しました。この中から最優秀賞である小松島市長賞を受賞された小松島中学校3年の梅山南美さんの作文を紹介します。

『税金に支えられている私たち』

小松島中学校3年　梅山　南美

私が小学生の時、祖父は癌と宣告された。二年間の闘病生活を送るが、思いは届かず六十二歳という若さで旅立った。あの日、家族みんなが集まった病室での光景が今だに目に焼きついている。

祖父が病気になってから、さまざまな税金に支えられていたことを知った。その税金の中でも一番助かったと聞いているのは、高額医療費の制度があったということだ。高額医療費とは、同一月にかかった医療費の自己負担額が高額になった場合、一定の金額を超えた分が、あとで払い戻されるという制度だ。この制度により、少しでも安心して闘病生活を送ることができたそうだ。

今の日本は高齢化が進んできて、健康の維持が難しくなり医療費にかかる税金が増えてきていると聞いた。ここで私は一人でも多くの人々が健康な生活を送り、国から受ける税金を軽減するためにはどのような取り組みをするべきかを考えてみた。例えば、市から送られてくる基本検診に対する国民の意識だ。せっかくこのような制度があるにもかかわらず、自分の健康に自信があり、受診しない人もいると思う。だが、病気になってからでは遅い。日本では、年に一度だけ税金によって検診を受けることができる。だから、もっとたくさんの人々がこの機会を利用するべきだと思う。そうすることによって、病気の早期発見ができ、後の治療費にかかる税金の軽減にもつながってくるのではないかと思う。税金を軽減することができれば、その分他のことに割り当てられ、より良い社会を築いていくことができる。これからの社会、自分のためにも一人一人が受ける税金の軽減というのはとても大切になってくると思う。

祖父が旅立ってから、なんだか今まで遠くにあった税金の存在が、急に身近に感じられるようになった。先に述べた高額医療費の他には、救急車を無料で利用できたことも大きな手助けの一つになったそうだ。救急車は一刻も早い処置ができるため、何人もの命を救ってきている。こうして考えてみると、税金は多くの人々の命とつながっているとも言えるだろう。

このように、私たちの生活は税金によって支えられている。今までの税金に対する私の考えは、「とられるものだ」ということだった。しかし学習を積んできた今思うと、自分も税金によって支えられているのに、その考えは勝手すぎる。今の私の考えは、今までの自分とは違う。税金は「納めるものだ」という考えに大きく変わった。全ての国民が税を納めることを無駄に思わず、「私の納めた税金は必ず人の役に立っている」と誇りに思うことができる社会になってほしい。

平成29年度の「税についての作文」優秀作品の表彰を受けた方は次のとおりです。（敬称略）

【小松島市長賞】
小松島中学校３年　梅山　南美

【特別賞】
小松島中学校３年　合田　ちひろ
小松島南中学校２年　栗田　空舞

【入選】
小松島中学校３年　田中　千智
小松島中学校３年　松田　千怜
小松島中学校３年　山田　恋夏
小松島南中学校２年　今倉　菜月
小松島南中学校２年　三好　愛夏

【佳作】
小松島中学校３年　伊豫　七海
小松島中学校３年　白井　亜美
小松島中学校３年　中井　綾
小松島中学校３年　野上　莉瑚
小松島中学校３年　湯浅　結衣子
小松島南中学校２年　山本　拓海
小松島南中学校２年　林　朱嶺
小松島南中学校２年　佐藤　直也
小松島南中学校２年　奈良﨑　星音

《今月は、固定資産税4期分、後期高齢者医療保険料５期分、国民健康保険税・介護保険料６期分の納付月です。》忘れずに納期限内に納めましょう。